

令和7年2月17日

大阪狭山市議会 議長
鳥山 健 様

市民オンブスマン大阪狭山
副代表：荒谷 恵介
：小原 一浩
大阪狭山市東池尻5丁目1462-32
TEL [REDACTED]

紹介議員：小芝 英俊

近畿大学病院移転後の後継病院についての請願

近畿大学医学部及び附属病院（現 近畿大学病院）の堺市泉ヶ丘地区への移転が報道されたのは、平成26年1月15日であった。本市から堺市への近大病院移転は、二次医療圏を超えるもので、本来 医療行政上は特別な事由がない限り許されるものではないものである。当初の計画では、現地に300床規模の病院を残すとの発表であった。その後、平成29年11月20日、近畿大学から病院統合再編計画が変更され、現地の跡地に300床の病院を残すことが撤回された。本市からの移転後、28診療科、300病床の病院を誘致するとの条件を願い、約2万筆もの市民の署名を近畿大学・大阪府に提出した。その後、平成30年9月13日には、大阪府・近畿大学・大阪狭山市との間に、近畿大学ペースで三者協定が締結された。（第2条 近畿大学は大学等の移転後における跡地での医療について、大阪府及び大阪狭山市との協議による周辺地域における将来にわたる必要な医療需要を踏まえながら、医療法人等への経営移譲を軸に医療機能の確保に努めるものとする。ただし、経営移譲が出来なかった場合は、近畿大学は、別途方策を講じるものとする。）また、市当局もその条件をもとに近畿大学と交渉を重ねてこられたと判断しているところでありました。

ところが、金剛さやまコミュニティ（令和6年12月19日付）紙によると近畿大学病院が、昨年 12月10日に医療法人せいわ会を跡地の後継病院にすることを正式に発表したと報じている。記事には「回復期の機能担う」との見出しと共に「病床数や診療科未定」また「救急救命機能は泉が丘へ」とも記されている。一方、ある市議会議員の活動報告には外来診療を設けず、回復期リハビリテーションに特化した病院として、令和9年4月開業予定と記載されている。そうだとすると、署名内容と全く話が違ってくる。大阪狭山市議会としてはこのような近大のなし崩し的な条件を甘んじて受けることなく市民の切なる声をバックに当初の移転条件に鑑み、地域医療に貢献できるような運営に配慮される様、切に要望する。本年、11月には、大阪狭山市から完全撤退となることは、本市にとって、きわめて重要な事項であり痛恨の極みであることを再度認識することであろう。行政を司る政治家には結果責任が問われるものであり、中間報告も含めて市民に対して誠実に経緯の説明を願いたい。本件は、議会としても慎重かつ真剣に審議し、その経緯を市民に説明されることを強く要望する。



以上